

第 101 期機素潤滑設計部門長 就任あいさつ

部門長 藤井 正浩 (岡山大学)



第 101 期の部門長を拝命しました岡山大学の藤井正浩です。よろしくお願い致します。この度は、ニュースレターに部門長就任のあいさつを執筆させていただき大変光栄です。さて、機素潤滑設計部門に登録の皆様は、部門評価が行われていることはご存じのことと思います。2023 年 4 月の学会誌に綴じ込まれていた「10 年ビジョンに向けて 2023 年 (101 期) の取り組み方針」にもありますように、新部門制が 2023 年度からスタートしています。これに先駆けて、2020 年度から新部門制の試行が開始されており、2022 年には部門活動の評価(試行)が行われました。この試行における機素潤滑設計部門の評価は、

幸いなことに上から 2 番目の A 評価(総合評価は上から S, A, B, C, D)となっています。少し説明を加えますと、部門評価は、定量評価と重点活動評価があり、定量評価としては「講演会有料参加者数」と「事業収支」が評価項目となっています。講演会有料参加者数では、国際会議やコロケーション(同じ会場での同時開催)により重み付けされています。事業収支では、収益を得ることが目的ではなく、収支がマイナスでなければよいとされています。つぎに、重点活動評価として、「部門間交流」、「年次大会への貢献」、「学術への貢献」、「産業界への貢献」、「国際連携活動」、「他学協会との連携」の外に「部門独自の事由設定項目」が評価項目にあげられており、当部門では、「部門間交流」、「学術への貢献」、「産業界への貢献」および「他学協会との連携」が重点活動として評価されました。なお、2022 年はコロナ禍の特殊な環境下でありましたので、新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月に 5 類感染症に移行した現在では、対面での参加が標準になると考えられますので、定量評価の「講演会有料参加者数」と「事業収支」に関して当部門は必ずしも安心できる状況ではありません。魅力ある講習会を企画して多くの方に参加いただくことや、年次大会や部門講演会(ICMDT も含む)などの講演会に積極的に参加いただき、結果として事業収支をプラスにできればと考えています。

今後、部門の本格的な評価は 2023~2025 年度の 3 年間について行われます。このための 3 年間の活動について新たな部門のポリシーステートメントを 2023 年 6 月に部門の委員長会議のメンバーにご協力いただき作成しており、このポリシーステートメントでは、「部門間交流」、「年次大会への貢献」、「学術への貢献」、「産業界への貢献」を重点活動項目として設定し、その目標を記載しました。このポリシーに基づいて今後 3 年間の部門の運営を進めることとなります。なお、学会活動は評価のためにのみ行われるものでないことは当然のことです。当部門では、4 つの技術企画委員会を中心に講演会や講習会の企画運営を行っていただいております。多くの会員の方に参加いただける魅力的な企画運営を進めることが出来ていると考えています。会員の皆様におかれましては、人脈や研究の幅を広げることや、異分野とのコラボレーションにより新たな研究を進めるためにも講演会や講習会に積極的に参加いただければと存じます。自動車の電動化に見られるように、一見成熟した分野でもゲームチェンジが行われます。それに伴って完成されたと思われていた技術にもさらなるブレークスルーが求められます。研究者、技術者としてはこれに備えて日々アップデートすることが求められていると考えられます。当部門では、2023 年 3 月には The 9th International Conference on Manufacturing, Machine Design and Tribology (ICMDT2023) を開催しました。2024 年 4 月には別府で第 23 回部門講演会(MDT2024)を、2025 年には姫路で ICMDT2025 を開催いたします。また、魅力的な内容の講習会も企画されていますので、是非ご参加いただき、学会活動の活発化にご協力いただきますようお願い申し上げます。